

令和 6 年 6 月 28 日現在

機関番号：25504

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K13252

研究課題名（和文）地方大学における留学生の就職支援のためのキャリア理論研究

研究課題名（英文）Career Research for Employment Support of International Students in Local Universities

研究代表者

山本 晋也（YAMAMOTO, Shinya）

周南公立大学・経済学部・准教授

研究者番号：20710742

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、地方大学に留学した外国人留学生を対象に、大学入学から卒業後の日本国内での就職に至るまでの主観的キャリア形成の過程について明らかにすることである。そのために、大学在籍中に内定を獲得した留学生約20名を対象とした複数回のインタビュー調査を実施した。その結果、内定獲得に至る留学生の多くがキャリアのトランジション（転機）を経験していること、また、トランジションの過程で生じる困難や葛藤を乗り越えた経験が、日本語能力の伸長を含む全人的成長をもたらしていることを明らかにした。これらの経験が「日本での就職」という選択を後押しし、また、実現の支えとなっていることを示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、留学生のキャリア形成という主題に関して、従来主流であった就労場面における言語・文化の獲得モデルではない、新しいトランジション・モデルを提示した点にある。加えて、本研究の発展的成果として、「自身のキャリア形成プロセスを言語化する」ことを目的とした日本語教育実践を行い、その事例と意義を示した点が挙げられる。具体的な教育実践の内実を示した点は、日本語教育への研究的・実践的貢献として大きな意義があると考えられる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to clarify the process of subjective career development from university enrollment to employment in Japan after graduation for international students who studied at regional universities. To this end, we conducted a multiple interview survey of approximately 20 international students who had obtained job offers during their university enrollment. As a result, we found that many of the international students who obtained job offers experienced career transitions, and that their experiences of overcoming difficulties and conflicts in the process of transitions led to holistic growth, including the development of their Japanese language skills. We showed that these experiences both encouraged and supported the realization of their choice to "find a job in Japan."

研究分野：日本語教育

キーワード：トランジション(転機) 主観的キャリア 留学生の就職 全人的成長の実感 キャリア形成

1. 研究開始当初の背景

日本学生支援機構(JASSO)の調査によれば、本研究を開始した2019年は日本全体で計312,214人の外国人留学生を受け入れていたという。この数字は、前年度と比較して13,234人(4.4%)の増加を示している。留学生の急増とともに、就職を契機とする長期的なキャリア形成とその支援体制の構築が全国の大学を始め日本社会全体の課題となっていた時期でもあった。特に、地方大学や地場の中小企業においては、留学生と企業とのマッチングに向けたリソースやノウハウが不足しており、言語や文化理解の問題、日本独自の就職活動やビザ切り替えの問題、更にキャリア観(働き方)の相違など、双方の様々な「すれ違い」が指摘されていた(福嶋:2016)。

こうした中で、留学生教育に関わる「日本語教育」の分野では、就労に関連する言語や文化を「ビジネス日本語」として切り出し、その教育を通じて留学生のキャリア形成を支えようとする研究・実践が盛んに行われていた。しかし、言語や文化の獲得を到達点とするキャリアモデルを提示し、そのための教育を実施することに対しては、学習意欲の低下や留学生活への不安・不満を増長させるばかりか、深刻な自己アイデンティティの混乱を招くことにもつながりかねないとする批判もあった(細川:2007)。

キャリアを主題とする研究の動向は、就業期間における仕事との関わり方(ワークキャリア)から、仕事に就く期間を含めた人生全体(ライフキャリア)を支援するものへと緩やかに変化し、社会との関係においていかにアイデンティティを形成していくかという主観的キャリアの理解へと関心が移りつつある。日本語教育においても、就職・就労を円滑に進めるための言語教育という視点のみならず、留学生が留学生活を経てなぜ日本での就職を選択しているのか、そして、いかにその実現に至ったのかという個別具体的なキャリア形成の内実を捉えようとする視点が必要であると考えられるが、そうした研究は非常に限定的であった。

2. 研究の目的

前述の研究背景から、本研究では働くこと・生きることを巡る個人の主観的な意識形成の過程から「キャリア」を捉える社会構成主義的なキャリア観に基づき、以下の3点について明らかにすることを目的とした。

- (1) 留学生はいかにして日本での「就職」という進路選択に至るのか
- (2) (1)の選択と実現には、どのような経験が影響しているのか
- (3) 日本語教育が留学生のキャリア形成に果たし得る役割とは何か

特に、地方大学に留学した私費外国人留学生の「日本国内での就職に至るまでの経験と変容」に焦点を当て、その背景にある意識形成の過程を明らかにすることで、留学生を受け入れる大学・企業・地域などの社会に広く共有可能なキャリア理論の構築を目指した。

3. 研究の方法

前述の研究目的を達成すべく、本研究では以下2点の調査・分析を行った。

(1) 研究キーワードに関連する文献調査

研究開始に先立ち、日本社会においてキャリア概念がどのように捉えられてきたのかを整理すべく、心理学を中心とするキャリア関連の先行研究調査を実施した。次に、留学生受け入れに関連する政策文書や統計資料の収集・分析を行い、その問題点について検討した。そして、大学等での留学生の就職支援・キャリア教育の事例を概観し、その傾向を明らかにした上で、日本語教育の分野においてキャリアを扱った先行研究・取り組み事例の批判的検討を行った。

(2) 留学生を対象としたインタビュー調査

上記の文献調査と並行して、地方大学への留学を経て在学中に日本企業への内定を獲得した留学生21名を対象としたインタビュー調査を実施した。

調査手法には、半構造化インタビューを採用した。調査協力者(留学生)に対しては、事前質問として1)日本での就職(キャリア形成)を決意した経緯、2)就職(キャリア形成)に際しての困難、3)困難を乗り越えた(又は乗り越えられなかった)経験の3点を伝えていた。当日のインタビューでは、上記の質問を中心に、1)日本国内での就職を決意するまで、2)就職を決意した時点から、就職活動を経て日本国内での内定を獲得するまで、3)内定獲得から入社・勤務開始以後、の3つの時期に区分し、その間にある個人の経験と変容について聞き取りを行った。また、インタビューに際しては、調査協力者(留学生)の許可を得たうえで録音し、その音声記録と文字化スクリプト、及び当日のインタビューメモを本研究における分析データとした。

分析には、「複線径路等至性アプローチ(TEA)」(安田・サトウ:2012)の手法を採用した。TEAの手法的特徴としては、一人の調査協力者に対して複数回のインタビューを行うこと、インタビュー結果を「複線径路等至性モデリング(TEM)」として図式化し(TEM図の作成)、調査協力者と

共有すること等が挙げられる。本研究もそれに倣い、インタビューデータを基に TEM 図を作成し、その分析・考察を行った。

4. 研究成果

本研究の成果と課題は、以下の通りである。

【研究成果】

(1) 留学生のキャリア形成プロセスの解明

研究目的の(1)(2)と関連して、当初予定していた30名の調査は叶わなかったが、最終的には延べ20名を超える留学生を対象に複数回のインタビューを実施した。その結果として明らかになったことは、学部留学を経て卒業後に日本での就職を選択・実現した外国人留学生の多くが、キャリアのトランジション(転機)を経験していたということである。留学生の経験するトランジションの多くは、在学中に経験した学内外での多様なコミュニティ参加や、その過程に生じる人間関係の構築に関わるものである。その語りの分析からは、トランジションの過程で生じる葛藤や困難を乗り越えた経験が、日本語能力の伸長を含む自身の全人的成長をもたらしていることが示唆された。そして、そうしたトランジションの経験と全人的成長の実感が、大学卒業後の「日本での就職」という選択を後押しし、また、実現の支えとなっていることが明らかになった。以上の内容を複数の学術論文にまとめたほか、学会発表を通じて公開した。

(2) 日本語教育におけるキャリア概念の受容と変遷、今後の展開についての考察

研究目的の(3)と関連して、心理学を中心とするキャリア関連の先行研究や、留学生受け入れに関する政策文書・統計資料等の調査を実施した。その結果に基づき、日本語教育におけるキャリア概念の受容と変遷の過程を整理し、今後の研究や実践の展開について考察を行った。具体的には、「ビジネス日本語」教育/研究の発展に始まり、全体的な傾向を把握しようとする調査研究からより個に密着した研究へ、また、就職および職業従事を円滑に行うためのワークキャリアの形成と共に、長期的な個人の生き方を含むライフキャリアの支援へと移行する日本語教育の新しい潮流を確認することができた。

(3) 留学生のキャリア形成支援に向けた教育実践の提案

上記(1)(2)の成果を基に、教育実践への応用を試みたものが、「留学生のキャリア形成プロセスの言語化をめざす日本語教育実践の意義」(2020年度早稲田日本語教育学会：口頭発表)である。同発表では、研究代表者が実施した「過去・現在・未来につながる自身のキャリア形成プロセスを、レポート・ディスカッション・マップ作成などの手法を用いて言語化する」という教育実践の事例を取り上げ、その意義について分析した。外国人留学生の「キャリア」を理解するための理論提示のみならず、具体的な教育実践の事例を提示した点は、本研究の発展的成果であり、日本語教育への研究的貢献としても大きな意義があると考えられる。

(4) キャリアに関連する共同研究への発展

また、本研究課題の遂行過程において、研究キーワードである「キャリア」を接点とした2件の他研究者(大学教員)との共同研究への発展があった(課題番号21K00642、課題番号22K00635)。前者は地方都市(散住地域)の在住外国人・後者は日本語教師と研究対象は異なるが、本研究の発展的成果として、広く日本語教育分野におけるキャリア研究に貢献することができた。

【今後の課題】

本研究は当初3年の研究期間を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大による影響を受け、2年間の延長を行った。この間、国内外の移動が制限され、対面での調査実施が困難な期間が長く、オンラインでの調査・成果発表を余儀なくされることが多々あった。加えて、調査協力者への依頼や新規協力者の掘り起こしが進まず、当初計画よりやや規模を縮小して実施することとなった。特に今回は留学生を対象にしたインタビューに限定して調査を実施したが、就職を契機とする長期的なキャリア形成に関しては、受け入れ企業の従業員や地域住民などの声も分析対象に含め、多角的な視点から検討していく必要がある。今後の課題としたい。

参考文献

- 細川英雄(2007)「日本語教育学のめざすもの-言語活動環境設計論による教育パラダイムの転換とその意味」『日本語教育』(132), pp.79-88
- 独立行政法人日本学生支援機構(2020)「2019(令和元)年度外国人留学生在籍状況調査結果の公表-留学生受入れの概況-」ウェブマガジン『留学交流』(111), pp.32-35
- 福嶋美佐子(2016)「外国人高度人材受け入れの現状と政策的課題：探索的調査研究」『公共政策志林』(4), 法政大学公共政策研究科, pp.155-173
- 安田裕子・サトウタツヤ(編著)(2012)『TEMでわかる人生の径路 質的研究の新展開』誠信書房

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 山本晋也	4. 巻 34
2. 論文標題 大学日本語教育における留学生のキャリア形成支援 「転機」を乗り越えるためのことばの教育に向けて	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 早稲田日本語教育学	6. 最初と最後の頁 39-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 家根橋伸子・山本晋也	4. 巻 185
2. 論文標題 外国人散住地域における外国人住民対応ローカル・ガバナンス構造の検討：ライフキャリア形成を支える地域日本語教育の視点から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本語教育	6. 最初と最後の頁 109-124
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本晋也	4. 巻 51
2. 論文標題 留学生はいかに自身のキャリアを形成していくのか 留学・兵役・就職を経験した韓国人留学生の事例から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本語教育研究	6. 最初と最後の頁 133-148
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山本晋也	4. 巻 27
2. 論文標題 留学生のキャリア形成プロセスとは何か TEM及びTLMGによる可視化を通じて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 早稲田日本語教育学	6. 最初と最後の頁 1 19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 家根橋伸子・山本晋也
2. 発表標題 日本の地方在住外国人母親の「子供のことばと教育」に対する意識-intersectionalityと母親のための学習支援
3. 学会等名 プリンストン日本語教育フォーラム（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 家根橋伸子・山本晋也
2. 発表標題 ローカル・ガバナンス構造から見た散住地域外国人住民のライフキャリア形成と日本語教育 X 市におけるフィールド調査から
3. 学会等名 2022年度日本語教育学会春季大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 家根橋伸子・山本晋也・小口悠紀子・帖佐幸樹
2. 発表標題 「地域日本語教育」の「地域」について考えてみませんか？ 視点を変えることで見えてくる多様な地域日本語教育のあり方
3. 学会等名 言語文化教育研究学会 第9回年次大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山本晋也・家根橋伸子
2. 発表標題 散住地域に暮らす外国人住民のライフキャリア意識とことばの支援の課題
3. 学会等名 言語文化教育研究学会 第9回年次大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山本晋也
2. 発表標題 留学生のキャリア形成プロセスの言語化をめざす日本語教育実践の意義
3. 学会等名 早稲田日本語教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山本晋也
2. 発表標題 大学で学ぶ留学生のキャリアの転機とは何か 日本での「留学」「就職」をめぐる語りから
3. 学会等名 言語文化教育研究学会 第10回年次大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松尾憲暁・山本晋也・高井かおり
2. 発表標題 日本語教育において「キャリア」はどのように扱われてきたか
3. 学会等名 アジア人材環流学会（国際学会）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------